近現代の品川

工業のあけぼの

鉄道開通とならんで品川の文明開化（ぶんめいかいか）の象徴となったのは、欧米の機械や技術を導入した工場の出現でした。明治 6 年（1873）、政府の積極的な産業振興政策によって、北品川に官営の品川硝子（がらす）製造所が設立されました。明治 17 年（1887）、工場は西村勝三（にしむらかつぞう）らに払い下げられて民営化し、ビール瓶や食器などを生産しました。

交通網の発達と都市化

それまで都市近郊の農村だった荏原（えばら）地域は、大正 12 年（1923）の関東大震災※後、都心部からの被災者や地方からの移住者により人口が急増しました。現在の東急目黒線、池上線、大井町線などの開通はこれに拍車をかけました。沿線は次々と宅地化され、商店街が生まれ、相次いで学校が開校しました。

※関東大震災：大正 12 年（1923）9 月 1 日に発生した、マグニチュード 7.9 の大地震。関東地方一円に大きな被害をもたらしました。

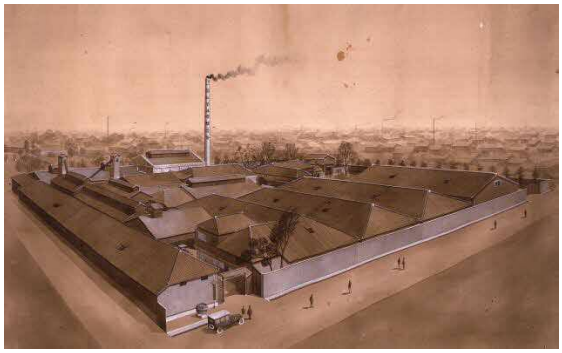
戦時下の品川

昭和 12 年（1937）の日中戦争※勃発後、人々の生活は公私ともに戦時体制に組み込まれる一方、物資が不足し生活は困窮しました。やがて戦局の悪化につれ、空襲も激しくなりました。特に同 20 年（1945）5 月 24 日から 26 日の空襲で、荏原区（現在の東京都品川区のおおよそ西半分にあたる地域）は大きな被害を受けました。

※日中戦争：北京西郊の盧溝橋（ろこうきょう）で起こった発砲事件をきっかけにはじまった戦争。

復興から高度成長へ

家を失った人々は、ありあわせの材料で作ったバラックで生活し、慢性的な物資不足に悩まされました。そうした戦後の混乱期を経て、1950 年代になると人々の生活は次第に安定していき、やがて高度経済成長時代を迎えます。昭和 35 年（1960）の都営地下鉄 1 号線（都営地下鉄浅草線）開通や同 37 年の首都高速道路の建設の一方で、品川の内湾漁業は終わりを告げ、海は埋め立てられてニュータウンや新しい産業の基地へと姿を変えていきました。

1_08_01 	**仙台味噌工場** 八木合名会社仙台味噌醸造所提供 大正 13 年（1924） 江戸時代、仙台坂（現在の品川区東大井）には仙台藩（現在の宮城県仙台市周辺）の屋敷があり、そこで味噌が作られていました。明治時代（1868～1912）になってからは、八木合名会社が味噌作りを引き継ぎました。
1_08_02 	**仙台味噌の陶製の樽** 明治時代 昭和 61～63 年（1986～1988） 仙台坂遺跡出土 八木合名会社が使用していた仙台味噌を入れる容器です。発掘調査で出土しました。このほか、発掘調査では、江戸時代の石組み竈と明治時代の煉瓦組みの竈の遺構などが見つかり、当時の味噌醸造の様子を知る手かがりとなりました。

1_08_03

金赤色被桜文ガラス花瓶（きんあかいろきせさくらもん）

大重仲左衛門（おおしげちゅうざえもん）作と伝わる

明治時代　19 世紀末

品川区指定文化財

薩摩国（さつまのくに）（主に現在の鹿児島県）出身の大重仲左衛門が作ったと伝わる製品の一つです。大重は、品川硝子製造所でガラス製作を学び、ランプや食器など優れた製品を生み出しました。

1_08_04

蓋付ガラス鉢（ふたつきばち）

明治時代　19 世紀末

品川硝子製造所で製造され、理化学製品として使用された可能性が考えられています。

1_08_05 	**品川白煉瓦製造所製の耐火煉瓦** 明治時代 昭和 61～63 年（1986～1988） 仙台坂遺跡出土 品川白煉瓦製造所は、明治 20 年（1887）、下総国佐倉（現在の千葉県佐倉市）出身の西村勝三によって品川硝子製造所の構内に設立されました。
1_08_06 	**灯油ランプ** 明治時代～大正時代 明治時代（1868～1911）になり、灯油ランプは急速に普及しました。特に明治時代終わりから大正時代初め（1910 年代から 1920 年代）に最盛期を迎えました。

1_08_07 	**化粧水「明色美顔水」** 明治 18 年（1885）発売
1_08_08 	**明治商会製の歯磨き粉** 明治 42 年（1909）以降発売 「歯磨き粉」とあるように、当時は粉末でした。

1_08_09

キング　第 2 巻第 10 号

大正 15 年（1926）10 月 1 日発行
大正 9 年ごろより大衆雑誌が出版されると、多くの人に読まれるようになり、急成長しました。特に、大正 15 年創刊の『キング』は 100 万部以上発行されました。

1_08_10

週刊目黒キネマ（右）と目黒キネマ名画集 No. 1（左）

右：大正 14 年（1925）
左：大正 15 年（1926）
「週間目黒キネマ」は、大正 12 年に上大崎に開館した洋画専門館「目黒キネマ」のプログラムで、「目黒キネマ名画集」は、目黒キネマで上映する作品の紹介と解説を書いたものです。

1_08_11 	**コリントゲーム** 昭和 9 年（1934）頃 玉を転がして遊ぶゲームです。右下から棒で玉を突き、穴に入れて得点を競います。日本では昭和 9 年ごろに流行しました。
1_08_12 	**家庭用映写機** 昭和時代　20 世紀前半 紙製のフィルムを手動で送る、家庭用の映写機です。
1_08_13 	**焼夷弾**（しょういだん） 昭和 20 年（1945）5 月 25 日、杜松（としょう）国民学校（東京都品川区豊町（ゆたかちょう）4-24）の校庭に落とされた、M69 ナパーム焼夷弾の殻です。

1_08_14 	**防衛食陶製容器** 昭和 18 年（1943）頃 大日本防空食糧株式会社製作 平成 16 年（2004）大井鹿島遺跡出土 金属は軍需品に優先的に使用されたため、缶詰の代用品として陶製容器を用いました。
1_08_15 	**空襲警報サイレン** 昭和時代 本体後ろのハンドルを回すと、サイレンが鳴ります。
1_08_16 	**愛国婦人会たすき** 昭和時代 愛国婦人会とは、傷病兵や戦死者の遺族を保護するための婦人団体です。

1_08_17 	**品川高等女学校　学徒勤労報国隊腕章** 昭和 19 年（1944）頃 学生は労働力として軍需工場に動員されました。昭和 19 年から学生の通年動員が始まると、ひとつの工場に複数の学校から動員される例も多く、識別のため胸章や腕章をつけました。
1_08_18 	**防毒マスク（市民用）** 昭和 18 年（1943）2 月 内務省規格品の十七年式防空用防毒マスクです。防火用具の一つとして各家庭に配布されました。

1_08_19 	**慰問袋**（いもんぶくろ） 昭和時代 手紙や娯楽品などを入れて戦場の兵士に届けるための袋です。
1_08_20 	**雑嚢**（ざつのう） 昭和 20 年（1945）頃 布製のカバンです。
1_08_21 	**ゲートル** 昭和 20 年（1945）頃 動きやすくするために、ズボンの裾と脛（すね）に巻きつけました。

1_08_22 	**鉄兜**（てつかぶと） 昭和 16 年（1941）頃 兵士の装備として使われるだけでなく、男性の防空用に市民も常時携帯しました。
1_08_23 	**防空頭巾**（ぼうくうずきん） 昭和 20 年（1945）頃 女性、子どもの防空用として携帯されました。

1_08_24 	**自動炊飯器　第１号** 東京芝浦電気株式会社（東芝）製作 昭和 30 年（1955） スイッチを入れるだけで自動でご飯が炊きあがる炊飯器が開発されたのは、昭和 30 年のことでした。
1_08_25 	**マイクロテレビ** ソニー株式会社製 昭和 38 年（1963） 当時、世界最小・最軽量の白黒テレビとして開発されました。
1_08_26 	**8 ミリシネカメラ（シングル 8）** キヤノンカメラ株式会社製 昭和 40 年（1965） 小型映画用カメラです。音声は入らず映像のみでしたが、日常生活が映像に残せることから、普及しました。

1_08_27

攪拌(かくはん)式電気洗濯機

松下電器産業株式会社製
昭和 28 年（1953）

1950 年代後半、洗濯機・白黒テレビ・冷蔵庫は生活必需品とされました。